

昭和三十二年七月二十五日。

あの日、街は一夜にして

荒れ狂う濁流に呑み込まれました。

家を失った人々、

愛する家族を失った人々。

六百三十名の尊い命が流されたあの日、

それは、この街の長い歴史の中で

一番悲しい一日となりました。

あれから半世紀。

街に橋が架けられ、

人々の顔に笑顔が戻っても、



あの日の出来事は、

私たちの心から消えることはありません。

# あの日を忘れられない



水害一周年追悼会 現在の川まつりのはじまり

七月二十五日、諫早では毎年この日に川まつりが開かれます。昭和三十三年に、本明川の氾濫によって犠牲になった方々を慰霊するためのおまつりです。

昭和三十三年の一周年追悼会開催以来、毎年灯される万灯。あの灯火の中に、私たちは何を想うのでしょうか。時代はめまぐるしく変化する今、あの日のことを知る人は少なくなってきました。諫早大水害五十周年を迎えるにあたり、私たちは今一度、その歴史を認識する必要があるのではないのでしょうか。

風化させない当時の記憶……………4

水害発生から復興まで……………

体験記「地獄」生後一カ月の娘を抱えて……………

被災者インタビュー……………14

防災の取り組み……………16

市長メッセージ……………18

## 昭和32年水害地域別被害状況

	死者・行方不明	重傷者	軽傷者	被害総額[千円]
諫 早	539	67	1,409	8,721,560
多良見	郷土史に記載なし			
森 山	53	11	37	665,340
飯 盛	0	0	4	174,730
高 来	37	8	10	126,640
小長井	1	0	1	123,070
合 計	630	86	1,461	9,811,340

※昭和32年7月25日、諫早地方は記録的な豪雨に襲われた。この水害では、本明川などが氾濫して市街地を中心に死者・行方不明者630人の犠牲者を出し、家屋の流失など壊滅的な被害を受けた。